

TEIKA

Teikyo University of Science

NEWS LETTER

ニュースレター



帝京科学大学

2017

VOL.
30
Anniversary



TEIKA News

News

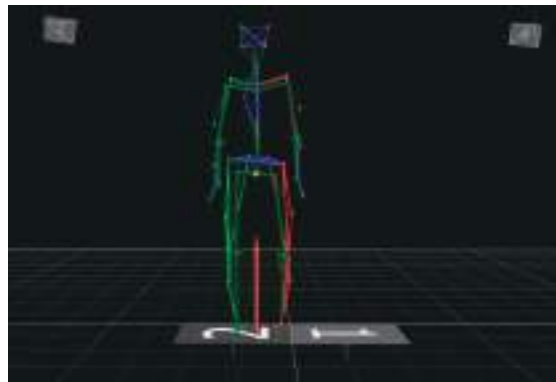
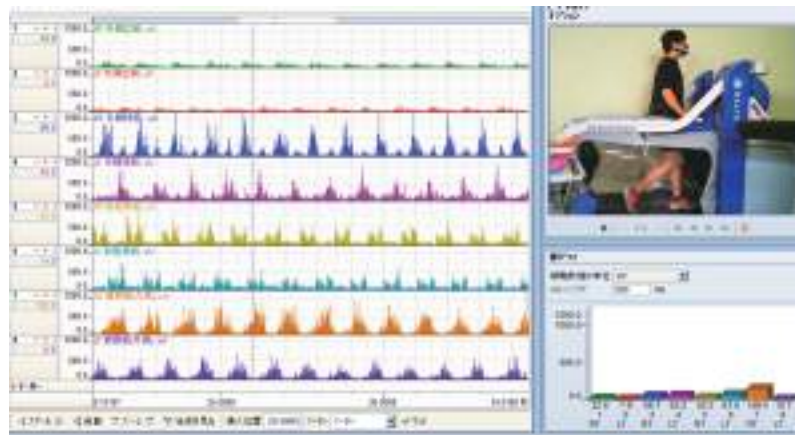
1

千住キャンパスに平成30年4月、 大学院医療科学研究科が開設します

文部科学省から大学院設立の認可を受け、「大学院医療科学研究科総合リハビリテーション学専攻」の修士課程を千住キャンパスに開設します。

大学院では、高齢化の進む国が抱える「人間にとって必要な健康のあり方」という社会的問題に対して、「疾病予防・健康増進・自立生活支援」の視点から教育・研究を進めていきます。先進的な専門知識および技術修得を広範かつ生活レベルから検討するため、基礎医学分野、応用医学分野、応用専門分野、特別研究からなる教育・研究体制を整えました。特に応用専門分野については「地域リハビリ支援・身体機能支援・高齢者支援」の3領域から質の高い包括的リハビリテーションの学修ができるプログラムを提供します。

大学院の受入れは、卒業した学部学科を問わず、社会人にも門戸を広げ、本学卒業生には特別選考枠を準備しています。卒業時には各分野で指導的役割を担うことのできる高度専門職業人になることが目標です。



News

2

キャンパス名が変わります



平成30年4月から「上野原キャンパス」は
東京西キャンパス
(山梨県上野原市)に名称変更をします。

News

3

女子駅伝チームスタート

学校教育学科 教授／女子駅伝チーム 顧問 有吉 正博

千住キャンパスを拠点に、平成30年4月から女子駅伝チームが本格的にスタートする運びとなりました。千住キャンパスには400mの公認陸上競技場や250mトラックの全天候型グラウンドの他、トレーニングルームやアリーナ等が整備され、また、キャンパスから徒歩5分でアクセスできる荒川河川敷コースなど、駅伝・長距離の強化にとって優れたトレーニング環境を有しています。また、本学にはアスレティック・トレーナーやスポーツ・トレーニング科学の専門領域などサポート体制も充実しています。平成29年度当初より、女子駅伝チーム創設担当職員が複数配置され、全国的な広報活動や人的ネットワークの構築、合宿所や指導スタッフ体制など着々と準備が進んでおります。

2020年東京オリンピック・パラリンピックを迎える頃には、駅伝チームの陣容も整い、将来は日本を代表する長距離・マラソン・駅伝選手の夢の実現に向けて始動できるよう願っております。全学的なご支援、ご声援を何卒、よろしくお願いいたします。



News

4

学校教育学科に 国際英語コース(仮称) を新設予定

※詳細につきましては来年度発行予定の「2018 ニュースレター」に掲載予定です。

平成31年4月にグローバルな視点を持った、教育及び教育支援に携わることのできる人材を養成すべく、「学校教育学科」に「国際英語コース(仮称)」を新設し、中学校・高等学校教諭一種免許状〔外国語(英語)〕の取得をめざす教員養成課程の設置を計画中です。

News

5

「ハラスメント」のない大学をめざして



「ハラスメント」とは、自らの言動が、本人の意図とは関係なく、相手を不快にしたり、相手に対して不利益や損害を与え、人権を侵害することを行い、いじめや嫌がらせもそれに含まれます。ハラスメントにはさまざまな種類があり、学内において発生する

可能性があるものは、主としてセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントの3つです。

万が一学内においてこのような事態が生じた場合には、被害者の救済を第一に考え、公正かつ適切に対応し、誠実に問題解決に臨みます。

そこで、本学では、相談から解決までワンストップでつなぐ相談窓口として、ハラスメント支援窓口を設置し、また心理的サポートも必要となる場合もあることから、臨床心理士の資格をもつハラスメント専門相談員も相談に対応しております。学生をはじめ教職員が安心して、快適に学び、働ける環境づくりを目指して、「ハラスメントに困った時のガイドブック」、さらに、ハラスメントの起こる場面に遭遇した時に「NO!」という意思表示を示すグッズとして、「イエローカード」を配布するなど、全学的に防止啓発に取り組んでおります。

大学として、ハラスメントに真摯に向き合い、人権・いのちを大切に、学生一人ひとりの大学生活が豊かなものとなるよう努めております。

足立区 教育委員会連携事業 「大学遠足」の 1日

地域連携推進センター長・
こども学科学科長
花園 誠

本事業は2010年に始まりました。活動拠点は上野原市内の廃校「旧桜井小学校」です。廃校とはいえ、築34年の耐震基準を満たした鉄筋コンクリート建ての立派な校舎です。プログラムは、屋外が「山」と「川」、屋内が「校舎内」と「体育館内」の4通りの中から天候に応じて適宜取捨選択します。台風などの極端な荒天を除き、決行される事業なので、「どんな状況でも十分満足してもらえるように」との配慮から複数のプログラムを準備しています。自然体験に油断は禁物です。1か月にわたる入念な事前の現地調査に加え、必ず前日の同時刻帯にリハーサルを実施します。

いよいよ本番。平成29年度は、5校を受け入れました。めずらしく天候に恵まれ、全ての回で「川」プログラムを実施することができました。清流に輝く子ども達の笑顔に、非常に有意義な事業であることを学生ともども実感しました。

振り返ると2010年の第1回目の活動を終えたあと、学生のみなさんに対して引率の校長先生から「足立区で教員採用したい」とお褒めの言葉をいただいたことが思い起されます。この事業は今も変わらず学生の皆さんの活躍に支えられています。



学園祭



平成29年度の科大祭のテーマは「^{わくわく}和来輪共」。科大祭と一緒に盛り上げたTEIKA生、科大祭に来ていただいた方、地域の方と創り出すさまざまな輪を共有してほしいという思いと、わくわくして科大祭を楽しんでほしいという思いからこのテーマを設定しました。科大祭実行委員は4月から新入生という新たな仲間を迎え、5月、6月は地元のお祭りの手伝いやオープンキャンパスのスタッフ、会議を重ねていきます。その後、7月から本格始動していきます。

来ていただいた方々に楽しんでもらえるようにたくさんの企画を考えたり、装飾物を作ったり、模擬店を出す団体への説明を行います。それぞれの部署が自分たちの役割を果たし、科大祭を盛り上げるため試行錯誤の毎日でした。

今年はコスプレイヤーが科大祭に参加し、来場者の皆さんと素敵な写真を撮ってSNSで拡散してもらうコスプレイベントや、理系大学らしくTEIKA No.1のリケジョを決める白衣クイーンコンテストなど新たな企画に挑戦しました！また、駐車場ステージ付近やいこいの広場では学生達が考案した模擬店が多く出店し、おいしい食べ物が充実していました！両日ともたくさんの方にお越しいただき大盛況でした。ありがとうございました！

科大祭実行委員会委員長
石井 こずえ
(生命環境学部
アニマルサイエンス学科3年)

科大祭
TOKYO
WEST



桜科祭実行委員会委員長
宇佐美 香菜
(生命環境学部
自然環境学科3年)

桜科祭
SENJU



10月28,29日、平成29年度も無事に第7回桜科祭を成功させることができましたことをこの場をお借りして、ご報告させていただきます。ご来場くださった皆様、並びにご協力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。

平成29年度のテーマは「^{いろどり}彩」。第7回ということから虹を連想させ、学生や先生方、職員の方、そして何よりご来場いただく皆様、全員で桜科祭を彩ってい



くという意味を込めました。私たち桜科祭実行委員会は、4月に行われる新入生へ向けてのイベント「千桜祭」そして「桜科祭」開催に向けて、1年を通じ活動をしています。本部をはじめとして、12部署に分けられているのですがそれぞれの活動は全く異なります。

皆様楽しんでいただくための企画を練り運営する部署、ご協力いただく企業様への挨拶回り等を担当する部署、館内の装飾物の作成・飾りつけを担当する部署、当日の安全確保を担当する部署等、活動内容が異なるからこそ歯車を合わせる必要があると考えています。

今後も総勢149名日々精進していきますので、ぜひ来年もまた桜科祭に足をお運びください！桜科祭実行委員一同、お待ちしております！

Teacher's ACTIVITY REPORT

▶ 教員の活動報告

生命環境学部

医療科学部

教育人間科学部

01 アニマルサイエンス学科



動物看護師になるための臨床教育

講師 中田 真琴

動物医療現場において、動物看護師の役割は非常に重要です。近年、獣医療は人の医療と同様に発展し医療レベルも高くなりつつあります。そのため動物看護師は多くの知識や臨床技術を学ぶ必要があります。当学科では、高度な動物看護技術を学びつつ、動物福祉の観点も重視して動物看護教育を行っています。必修科目のアニマルサイエンス実習内では、犬の静脈点滴モデルを作製し、臨床実習に用いることで、動物に負担はかけずに実際の臨床現場と同様の状況で動物医療を学んでいます。さらに卒業研究では、臨床現場で役立つ新たな獣医療シミュレーターの作製や研究を行っています。皆様の大事な家族であるペットの命を預ける動物病院。そこで働く動物看護師はこのような勉強や経験を経て臨床現場で働いています。

02 自然環境学科



桂川の自然と子供たち

教授 落合 鍾一

私の研究室では、相模川の上流にあたる桂川とその支流並びに相模湖や周辺の湖沼について水質と水棲生物の調査を長年続けています。東京西キャンパスがある上野原市は風光明媚な自然に囲まれ、予想されるように河川や湖沼の水は透明度も高く、水質的にも良好なものです。カワゲラなどの水棲生物やカワセミなどの野生動物を観察し、桂川渓谷など感動的な美に接すると『自然を守る』という意義が論理ではなく直接感性(右脳)に伝わります。研究室では毎年、小学校の桂川への遠足にボランティアで参加しています。子供たちと楽しく交流し、自然に関する質問に答えるなどして故郷の美しい自然を理解させ、愛する心を育むお手伝いができればと活動しています。本物の自然と触れ合える東京西キャンパスでの学園生活は、卒業後、自然のオアシスとして心に残るものと思います。

03 生命科学部



▲ウィーン大学
◆ドップラーの胸像

センサ技術の医療分野への応用

教授 内田 恭敬

研究分野はセンサ技術の医療分野への応用です。主に緑、赤、近赤外の3色の光を利用して血流を分析して体調変化を読み取りAI技術を使い分析を試みしています。測定やデータ分析方法の一部については、2017年7月にオーストリアのウィーン大学開催されたICServe2017学会のシニアのための有用技術に関するスペシャルセッションで成果発表を行いました。写真はウィーン大学で、ドップラーやハイゼンベルクの像があり印象的でした。

また、臨床工学技士の方と協力して血液凝縮率をモニタする装置の研究も行っており、臨床工学士会や日本透析学会で発表しました。

運動の合間に炭酸泉浴：筋疲労の進行を抑制？

教授 橋本 真明

療養の「炭酸泉(二酸化炭素温泉)」はCO₂を1L中に1g(1000ppm)以上含む温泉です。炭酸泉浴は血の巡りを良くすることから「心臓の湯」とも呼ばれ、ドイツなどヨーロッパでは専門医の処方により、心臓・循環器系疾患のある患者の温泉治療に利用されています。同様な濃度のCO₂を含む温水(人工炭酸泉)を安価で速やかに作る装置が開発され、生理機能に及ぼす炭酸泉浴の作用メカニズムを詳細に解析できるようになりました。人の不感水温(35℃:体温調節反応を引き起こさない水温)以下でも、数分間入浴すると皮膚血管が拡張するので、皮膚血流の改善に利用されています。さらに、浴水に浸された皮下の骨格筋の血管も拡張させ筋血流を増加させる可能性が示され、筋疲労回復促進や運動パフォーマンスへの効果も期待されています。



▲数分間で入浴部分の皮膚が赤くなる(水温34℃)
◀前腕を同じ水温の人工炭酸泉と水道水に浸し、皮膚血管の拡張を観察する生理学実習の1コマ

知見を広げる1つのツールとして

講師 畑山 元政

9月16日～18日に愛媛県松山大学で行われた日本体力医学会大会に参加しました。この学会は医師や研究者をはじめ、栄養士、教員等様々な分野の専門家が集まり、運動生理学から動作解析、疾患や心理学、トレーニングや栄養まで、スポーツ医学に関する幅広い研究の成果が報告されます。我々柔道整復師は患者さんのケガを治すことが仕事ですが、超高齢社会を迎え、柔道整復師が健康維持増進を目的とした運動指導に携わる機会も増えています。また、アスリートのコンディショニング等に携わる事もあり、それらに対応できる広い知識が必要です。私が所属する柔道整復師の専門性の高い学会への参加も必須ですが、他学会に参加して様々な分野の知識を得て患者さんへ還元し、教員としてもその必要性を伝えながら教育と研究に研鑽していきたいと考えています。



The future is now

准教授 梅津 靖江

米国の文化人類学者 Margaret Mead のこの言葉は、私の座右の銘です。この先の未来というのは、私たちが生きている「今」の積み重ねで生まれます。つまり、今を生きている私たちは、過去においての「今」を積み重ねた結果がもたらし、その過去において未来と呼ばれた時間、そう、私たちは今ここにいるのです。「今」の行動の積み重ねによって、未来の私たちは何通りにも変化します。2017年春より、在宅看護学の教員として着任し、未来の看護職となる学生の育成を二人の教員と協力して、教育に携わっています。一人ひとりの学生が思い描く理想とする未来を実現するために、学生が焦らず一歩ずつでも、今できることを懸命に頑張れるように、学生と共に今を大切に生きています。



ペア・4人グループで課題に取り組む解剖学実習

教授 大石 仁

理学療法学科1年後期の「解剖学実習Ⅰ」の目標は、実習を通して、1)前期の「解剖学Ⅰ」で学んだ知識を2年以降の臨床的科目に役立つものにする、2)主体的に学ぶ姿勢を身につける、3)チームで取り組む経験を重ねることです。約80名で行いますが、席は課題ごとにランダムに変わります。たまたま隣に座った2人が今週のペア、そして向かい合ったペアを合わせてグループとします。実習はペアのコミュニケーションから始まります。向き合って交代で話し手と聞き手になり、話し手は「今週のお題」、例えば「今日の朝食と日頃の食生活」について約1分で話します。聞き手は笑顔で傾きながら聞きます。教室のムードが上がったところで課題に取り組みます。写真は、肩の筋を骨格模型にテープで構成する課題、神経の伝導路を作製する課題での作品です。



04 東京理学療法学科

05 東京柔道整復学科

06 看護学科

07 理学療法学科

作業療法学科

8



作業療法基礎技法学実習

助教 黒川 喬介

作業療法士は、身体、精神、高齢期、発達といった、幅広い領域で活躍する職業です。勿論、リハビリテーションですので、関節運動や筋力強化といった、運動療法を治療に取り入れることもあります。しかし、名前を見ても分かるように『作業』を『療法』に活かす職業です。作業療法学科の特徴に挙げられる授業として、『作業療法基礎技法学実習』があります。本学の実習で行う種類は他の養成校と比較しても、とても多彩に要しています。病気や事故によって、心身に障害を抱えた方に対して、物を作ったり、楽器を弾いたりし、手工芸などを行い、再び自宅や地域での生活を取り戻してもらう。一見すると、ただの手工芸教室ですが、作業療法士は、対象者が抱える障害や症状の医学的要因を理解し、各種作業を分析的に把握し結びつけることで治療に活用します。そのための力を学生は1学年から身に付けていきます。

柔道整復学科

9



ADPD report 2017 (Vienna)

教授 渡邊 利明

2017年3月29日～4月2日に開催された第13回ADPD（アルツハイマー病・パーキンソン病）国際学会は、オーストリアのウィーンで開催されました。この学会で私は、"IGF-1 IS A POTENT INDUCER OF METALLOTHIONEIN EXPRESSION AND RECOVERY OF DOPAMINERGIC NEURONS".というタイトルで参加発表しました。これらの研究に対する思いを熱く語ることによって、他の研究者の心を動かして、共同研究にまでつながったときには涙が出るほどうれしかったです。それほどこの国際学会にはパワーがあります。特に今回印象に残ったのは、臨床分野のシンポジウムで、Dr. Issacというパーキンソン病専門神経内科医が、自身パーキンソン病に罹患しその行く末を把握しながら、懸命にレポートを書き続けて、自身を実験体として種々の薬物の効果を試すという、研究者として神に値する講演が終わったときには、聴衆である研究者を泣かせた感動的な講演は見たことがありませんでした。

医療福祉学科

0



健康福祉科学セミナーI『千住カレッジ』

助教 宮本 佳子

授業「健康福祉科学セミナーI」で私が担当するグループは、地域包括支援センター千住西にご協力いただき、月1回のサロン『千住カレッジ』を開始しました。活動の目的は、千住地域に住む高齢者の生活上のニーズを理解し、それに応えていくことと、引きこもりがちな男性高齢者と繋がりを持ち、地域での生活を安心安全に継続できるように支援することです。

地域に住む男性高齢者と新たな繋がりを持つことは、大きな課題です。『千住カレッジ』に男性も参加してもらえるよう、高齢男性だけの活動している体操教室を訪ね、一緒に活動をし、『千住カレッジ』のPRをさせていただいたこともありました。『千住カレッジ』は、いつも参加者の笑顔と笑い声で溢あふれています。基本的な学修を踏まえ、かつ学生ならではの活動が展開されるよう、関係機関と連携しながら学生の主体的な活動・学びを支援していきたいと考えています。

こども学科

1

学生が主体的に取り組める「基礎ゼミ」の取り組み

教授 松原 洋子



「基礎ゼミ」は「生徒」から「学生」になったばかりの人たちが初めて体験するもので、これからの4年間の大学生活を充実させるための、土台作りとなる大切な時間です。講義を聞いて記録をとることはもちろん大切ですが、学生自身が積極的に参加することで主体的に学ぶことのできる「アクティブ・ラーニング」は、これからたくさんの場所で活かされることでしょう。その1つとして今回、ディベートを盛り込んだ学習を企画しました。同じ助言の先生についている学生同士が、別のグループと1つの議題について論じあうのです。事前には一緒に調べ物をしたり作戦を練ったりしました。試合を終えて、「次は〇〇についても調べておこう。」等の前向きな発言と同時に、「学生同士の交流が深まってよかった。」という声もあがりました。まずまずのスタートが切れたのではないかと思います。

自ら課題解決が出来る学生の育成を目指して

特任助教 松井 高光

今年の4月に中高保健体育コース教員兼柔道部コーチとして着任いたしました。私の専門分野はスポーツ医科学と保健体育科教育学で、主に「怪我のリスクが低く、身体能力が身に付く授業」の検討をしています。将来教員を目指す学科ですので、授業やゼミでの活動を通じて、自ら最善の策を思考・判断し行動できる学生となるよう、教育活動を行っています。また、柔道部では選手の競技力向上のために、競技をさまざまな観点から科学的に分析しています。現場では、選手が分かりやすく使えるデータを迅速にフィードバックすることが重要であり、それによって良い状態で選手を畳に上げることが出来ると考えています。日本一の選手を育てるためには、日本一の指導者でなくてはならないので、私自身も常に探求心を持ち、選手全員が目標達成に向けてチャレンジし続けられるようにサポートしています。

学校教育学科

12



中国「障害者教育条例」の改定

教授 呂 曉彤

2017年5月1日、中国「残疾人（障害者）教育条例」が23年ぶりに改訂されました。この新条例には「障害者に教育機会を平等に提供する」と「インクルーシブ教育を推進する」そして、この2つのスローガンをスムーズに実施するための「法的な保障」という3つの大きなポイントがあります。条例の改定により、障害児・障害者教育は大きな転換期を迎え、教育現場にも著しい変化が見られました。その変化に応じて、今年度の中国出張が多くなりました。中国の学校と日本の学校巡回指導で感じたのが、通級指導教室の設置、教員の質、校内外連携、発達障害児の対応、保護者支援などは日中共通の課題です。この転換期を機に来年度の研究課題として、日中における通級指導教室の現状を把握し、運営の在り方を検討したいです。

幼児保育学科

13



動脈硬化予防のための運動プログラムの開発

助教 小林 亮太

私は、2017年の4月に保健体育科目の教員として本学に着任いたしました。私の専門分野は、「運動生理学」および「運動代謝学」です。現在は、心血管疾患(世界死因第1位)のリスクを高める食後高血糖に伴う動脈硬化をウォーキングやランニングなどの有酸素性運動で予防・改善できるか否かを研究しています。私はこれまでに、習慣的に有酸素性運動を実施している者は、食後に伴う動脈硬化を抑制できたこと、食後に伴う動脈硬化は食後よりも食前、低強度よりも中強度、連続・断続的な有酸素性運動を実施して抑制できたことなどを明らかにしました。本学では実験室の立ち上げから始まりますが、これからも「国民の動脈硬化を予防・改善できる最適な運動方法」を明らかにしていきます。学生には、健康意識を高めてもらえるように、自分の研究成果を活用した授業を実施していきたいと考えています。

▼動脈硬化度は脈波伝播速度により算出し、運動前後に測定。



▲運動強度は酸素摂取量により設定し、実施。

総合教育センター

14

私の教育と研究

助教 高田 麻美

私は東京西キャンパスで生命環境学部の教職課程を担当しています。授業では、学校教育の歴史や法制度などの基礎理論に加え、いじめや不登校などの教育問題も取り上げています。教育実習を見据え、上野原市内の学校で授業参観を行ったり、学生一人ひとりが模擬授業を実施したりするなど、実践的な指導力の養成にも力を入れています。

私の専門領域は日本教育史で、現在は明治時代における学校と教育博物館(現在の国立科学博物館)との交流史を研究しています。教育博物館は学校用机や教材などを展示したり、貸し出したりしていました。さらに、同館は教師を対象とした教授法に関する講習会も開催しました。私は、教育博物館が学校教育や教師たちにどのような影響を与えたのかを、当時の資料を用いながら調査を進めています。研究で得られた成果は授業へ還元していきたいと考えています。



教職センター

15



BASEBALL

軟式野球部

春と秋にリーグ戦があり、東日本大会出場を目標に活動しています。できたばかりの部ですが、部員一人ひとりが意見を出し合い運営しているので、学年や学科を問わず人間関係の輪が広がっています。

- 活動場所：千住キャンパス・4号館グラウンド
- 活動曜日：月・土
- 活動時間：18：20-20：00（月）／13：00-16：00（土）など

SENJU
CAMPUS



BIOTOPE

ビオトープ研究部

カエルの個体調査や体長・体重測定、池の水生昆虫の生息数調査、環境を整えるための池整備を行っています。池の管理は大変ですが、年間を通して生物の変化を観察できるのでとてもやりがいがあります。

- 活動場所：東京西キャンパス・ビオトープ池
- 活動曜日：木・隔週日曜
- 活動時間：19：30-21：00（木）／13：30-17：00（日）

TOKYO
WEST
CAMPUS



ANIMAL LIFE

アニマルライフ （アニマル系サークル）

イヌの譲渡会や動物園イベントのお手伝いのほか、飼い主のいないネコを減らすための活動、野良猫調査など、動物に関わるボランティア活動に積極的に参加しています。動物好きの方、大歓迎です！

- 活動場所：千住キャンパス近くの公園など
- 活動曜日：不定期

SENJU
CAMPUS



クラブ・サークル紹介



BRASS BAND

吹奏楽部

部の目標は、お客さんを楽しませる演奏をすること。みんなで話し合って曲を決めたり、演出を考えたり、肺活量を鍛えるために筋トレをしたりと、試行錯誤をしながら練習に励んでいます。

- 活動場所：千住キャンパス・7号館音楽室
- 活動曜日：月・木・土
- 活動時間：18：40-20：30（月・木）／9：00-18：00（土）

SENJU
CAMPUS



ASTRONOMY

天文部

普段はキャンパス内で惑星観察を行っています。観測条件が良いときは少し遠出をして星空を眺めに行くことも。天文部の魅力は何といっても星について語れるようになること。目標は流星群の観測です。

- 活動場所：東京西キャンパス・部室棟前／ドッグラン裏
- 活動曜日：火・金
- 活動時間：19：00-21：00

TOKYO
WEST
CAMPUS

Message Voice

●OGからのメッセージ
Yurie Sugaya

活躍する卒業生

菅谷友里恵

亀田総合病院 臨床工学技士
（2010年生命環境学部メディア情報システム学科〈当時〉卒業）

大学時代は3年間、山梨県の上野原キャンパス*で主に工学系の勉強をしました。4年次から東京都の幡ヶ谷にある帝京短期大学で、帝京科学大学以外の大学、専門学校の人たちと1年間、共に協力しながら短期集中で医療系の勉強をし、国家試験を受験しました。様々な人たちと関わったり、先生たちにも恵まれたり楽しい大学時代を送ることができました。

現在は千葉県にある亀田総合病院で臨床工学技士として働いています。

亀田総合病院の臨床工学は3部門（保守部門、循環器部門、透析部門）に分かれており、私は保守部門に配属されています。その中で人工呼吸器の使用 midpoint 検査や輸液ポンプやシリンジポンプ、電気メスなどの医療機器の点検、手術室での内視鏡、レーザーなどの準備や操作、高気圧酸素治療などを行っています。

私は人工呼吸器に興味があり、呼吸療法認定士という資格を取ることを目標にしていました。亀田総合病院には成人で使用する人工呼吸器から新生児小児領域で使用する人工呼吸器、搬送で使用する人工呼吸器など様々な人工呼吸器があり、とても勉強になります。また、呼吸ケアチーム(RST)と呼ばれる医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士で構成された会議があります。ここでは医師、看護師などに対して人工呼吸器における知識向上のための勉強会を計画したり、人工呼吸器を使用している患者の設定が適切かどうか、などの話し合いを行ったりしています。他職種と関わることで、他職種の意見を聞くことができ勉強になります。亀田総合病院の教育体制はしっかりしているので目標としていた呼吸療法認定士を取ることができました。次は高気圧酸素治療専門技師の資格を取りたいと思っています。

学生みなさんも生活していく中で常に何かしらの目標を見つけ、その目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。医療系を目指している学生みなさんと一緒に働けることを楽しみにしています。

※平成30年4月、上野原キャンパスから東京西キャンパスへ名称変更



一人ひとりの適性や将来を見据えた懇切丁寧な面談を繰り返し、学生にとってのベストを見つけます。

キャリア支援センター

キャリア支援センターは、就職支援だけでなく、学生の適性や将来まで見据えたキャリア教育を行うことを目的としています。

今、社会では新入社員の約3割が3年以内に退職すると言われています。その原因となる企業とのミスマッチを防ぐためにも、キャリア教育は必要です。そのために正課の授業として1年次から導入しています。

また、各キャンパスに合計6名配置しているキャリアカウンセラーによって、3年次の春に全員面談を行います。早期から就職活動に向けて希望を聞き取り、適性とのすり合わせをするため、面談は継続的に行います。

さらに、日常的に学生と関わる教員と連携しながら、就職活動に関する学生の動向を把握し、一人ひとりの学生にとってのベストを一緒に見つけていきます。

学生の入学、卒業

- 平成29年3月21日 卒業式・学位授与式
(於 日本武道館)

学部生947名卒業、修士課程7名修了

- 平成29年4月4日 入学式 (於 日本武道館)

学部生1220名入学、

修士課程7名入学、博士課程1名入学



退任・ 新任教員

■平成28年度〈退任〉

横山 章光	准教授	アニマルサイエンス学科
今野 直人	特任助手	アニマルサイエンス学科
前田 康行	教授	生命科学科
猪股 高志	教授	理学療法学科
藤井 靖久	教授	理学療法学科
近藤 知子	教授	作業療法学科
齋藤 益子	教授	看護学科
中村 鈴子	教授	看護学科
方波見 柳子	准教授	看護学科
森實 詩乃	講師	看護学科
甲斐 恭子	助教	看護学科
和田 一郎	講師	医療福祉学科
重松 義成	助教	医療福祉学科

■平成29年度〈採用〉

山本 和弘	准教授	アニマルサイエンス学科
門多 真弥	特任助教	アニマルサイエンス学科
大森 奈保子	特任助手	アニマルサイエンス学科
喜久村 徳淑	特任助手	アニマルサイエンス学科
佐野 友彦	教授	生命科学科
上野 良平	准教授	生命科学科
潮見 泰蔵	教授	東京理学療法学科
大石 仁	教授	理学療法学科
新永 拓也	特任助手	理学療法学科
畑山 元政	講師	東京柔道整復学科
高橋 達徳	特任助教	東京柔道整復学科
伊藤 久美	教授	看護学科
吉岡 幸子	教授	看護学科
梅津 靖江	准教授	看護学科
小野寺 光江	講師	看護学科
小安 美恵子	講師	看護学科
高岡 素子	講師	看護学科
田中 樹	助教	看護学科
松井 高光	特任助教	学校教育学科
松原 洋子	教授	こども学科
三石 美鶴	特任教授	こども学科
内藤 可夫	教授	総合教育センター
渡會 公治	特任教授	総合教育センター
石田 良仁	講師	総合教育センター
小林 亮太	助教	総合教育センター

TEIKA 情報

ホームページをはじめ本学の情報は
下記 SNS からも見ることができます。



本学 HP サイト



Instagram



Twitter



Facebook



Youtube

「編集後記」

今回で記念号となる30号を発行することができました。これも皆様のご支援があつてこそと心より感謝申し上げます。今年度も学生、教員の実りある活動を報告することができました。来年度も継続し学内外の活動報告ができれば幸いです。(ニューズレター部会 望月崇博)